

落札者となるべき同価の入札が2者以上ある場合のくじ番号による決定方法
 [落札者自動決定方式]

1 くじ番号

落札者となるべき同価の入札者（以下「入札者」という。）が提出した入札書の住所に記載されているアラビア数字の合計を算定します。

- 【例】〇〇町12番34号 → $1 + 2 + 3 + 4 = \underline{10}$ ※12+34ではない
 〇〇町1丁目5番3号 → $1 + 5 + 3 = \underline{9}$
 〇〇町一丁目5番3号 → $5 + 3 = \underline{8}$ ※漢数字はカウント外

2 入札順位

入札順位は、入札書に記載されている氏名、名称又は商号の五十音順に0（ゼロ）から、1、2、3・・・と番号を割り振ります。この時、株式会社、有限会社等の会社の種類名も全て含めることとします。

3 落札者の決定

(ア) 各入札者のくじ番号の合計に入札参加者数(*)を加えます。なお、この数値が2桁の場合は、くじ番号のように数字を分解せず、参加者数そのものを加えてください。

(*) 一般競争入札においては参加申請者の数、指名競争入札においては指名者の数。辞退含む。

(イ) (ア) で得られた数値を同価の入札者の人数で割り、余りを算出します。

(ウ) 同価格の入札者の入札順位が、上記で得られた数字と同じ方が落札者となります。

【例1】入札参加者数6

住 所	社 名	くじ番号	入札順位(五十音順)
〇〇町5番36号	株式会社A	$5 + 3 + 6 = \underline{14}$	0 かぶしき
××字△△125番地	B有限会社	$1 + 2 + 5 = \underline{8}$	1 びー

くじ番号の合計（14+8）に入札参加者数6を加え、同価の入札者人数で割る。
 $(14 + 8 + 6) \div 2 = 14 \text{ 余り } 0$
 →余りは「0」であることから入札順位「0」である株式会社Aが落札

【例2】入札参加者数12

住 所	社 名	くじ番号	入札順位(五十音順)
〇〇町9番25号	有限会社A	$9 + 2 + 5 = \underline{16}$	2 ゆうげん
××一丁目3番10号	株式会社B	$3 + 1 + 0 = \underline{4}$	0 かぶしき
□□3丁目4番8号	C株式会社	$3 + 4 + 8 = \underline{15}$	1 しーかぶしき

くじ番号の合計（16+4+15）に入札参加者数12を加え、同価の入札者人数で割る。
 $(16 + 4 + 15 + 12) \div 3 = 15 \text{ 余り } 2$
 →余りは「2」であることから入札順位「2」である有限会社Aが落札